

“2030ビジョン”プロジェクト

「未来を創る教育のあり方」

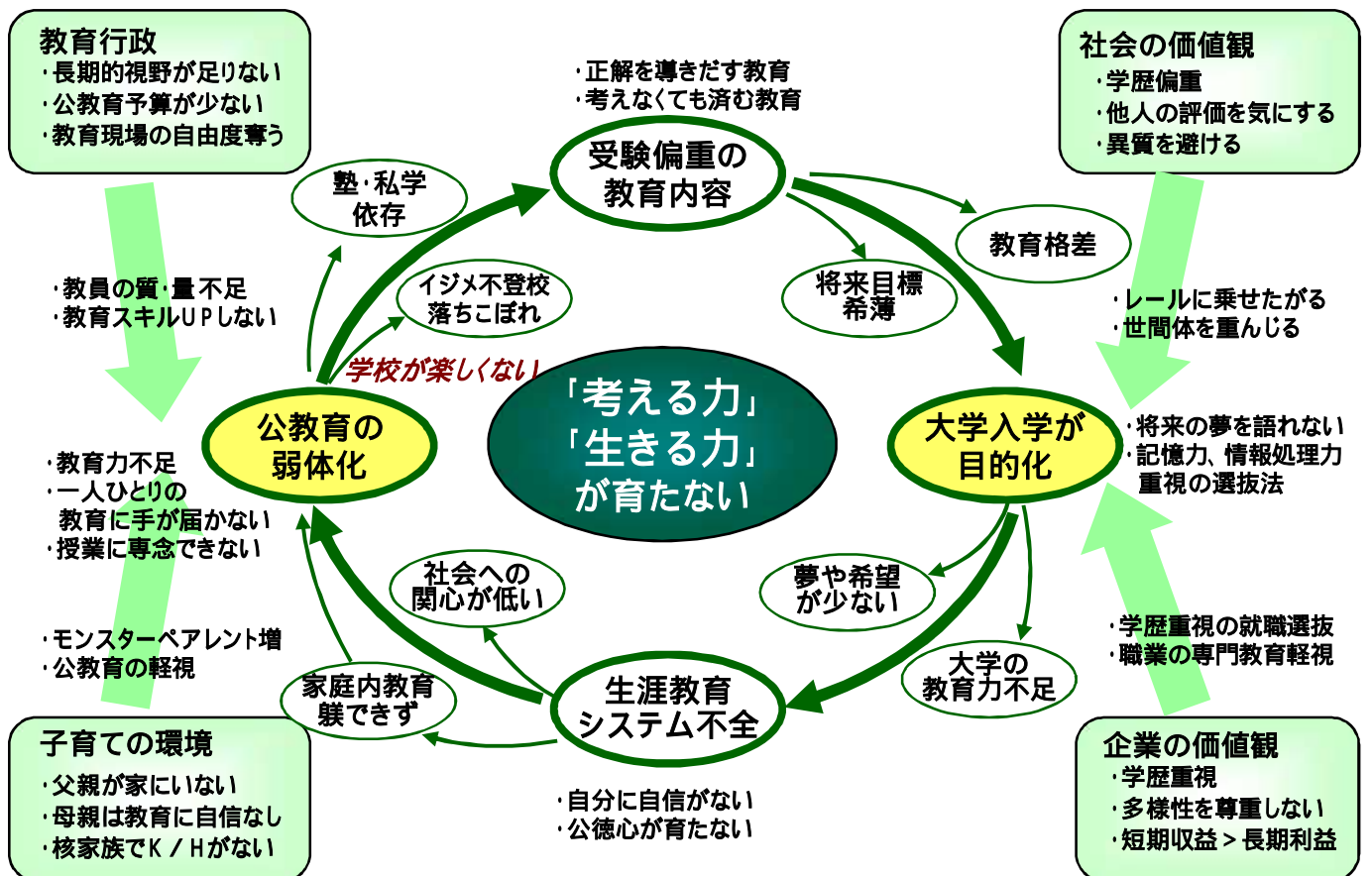
“2030ビジョン”プロジェクトでは、「日本の将来像」を皆で考えるという活動をしております。未来を切り拓くためには、言うまでもなく「教育」が重要です。現在の日本の教育に関しては、考える力が不足している、コミュニケーション力が弱い、ストレスへの耐性が低い、などなど教育成果としての問題があります。また、いじめや不登校、落ちこぼれ、教育格差、教師の過大な負担など、仕組みとしての問題もいろいろあります。

これらの問題を解決していくためには、教育分野だけでなく社会全体の意識や構造を変えていくことも必要だと思います。それにはやはり“将来の国のありよう”を共有して、我々全体の価値観を変えていくことが求められます。

課題はたくさんありますが、それらを整理すると下のような構図として捉えることができます。この構図から考えると、大学入学が自己目的化したことで、受験勉強の価値観が学習そのものを歪めていると言えます。総合学習の導入や一部で行われている先進的教育の実施等により効果を上げている部分もありますが、近年は学力重視の揺れ戻しで、社会で役立つ能力とは関係のない教育に再び向かおうとしているように感じます。また、公教育が弱体化したことにより、落ちこぼれや不登校が増加し、塾依存が強まり学校の信頼感が薄れていることも本末顛倒と言えます。また親の経済力が子の教育に影響し、教育格差の連鎖を生む要因でもあります。この「受験を目的とした学習からの脱却」、「学ぶことの入り口としての公教育の強化と教育機会の均等化」が長期的に取り組むべき重要なことと考えます。

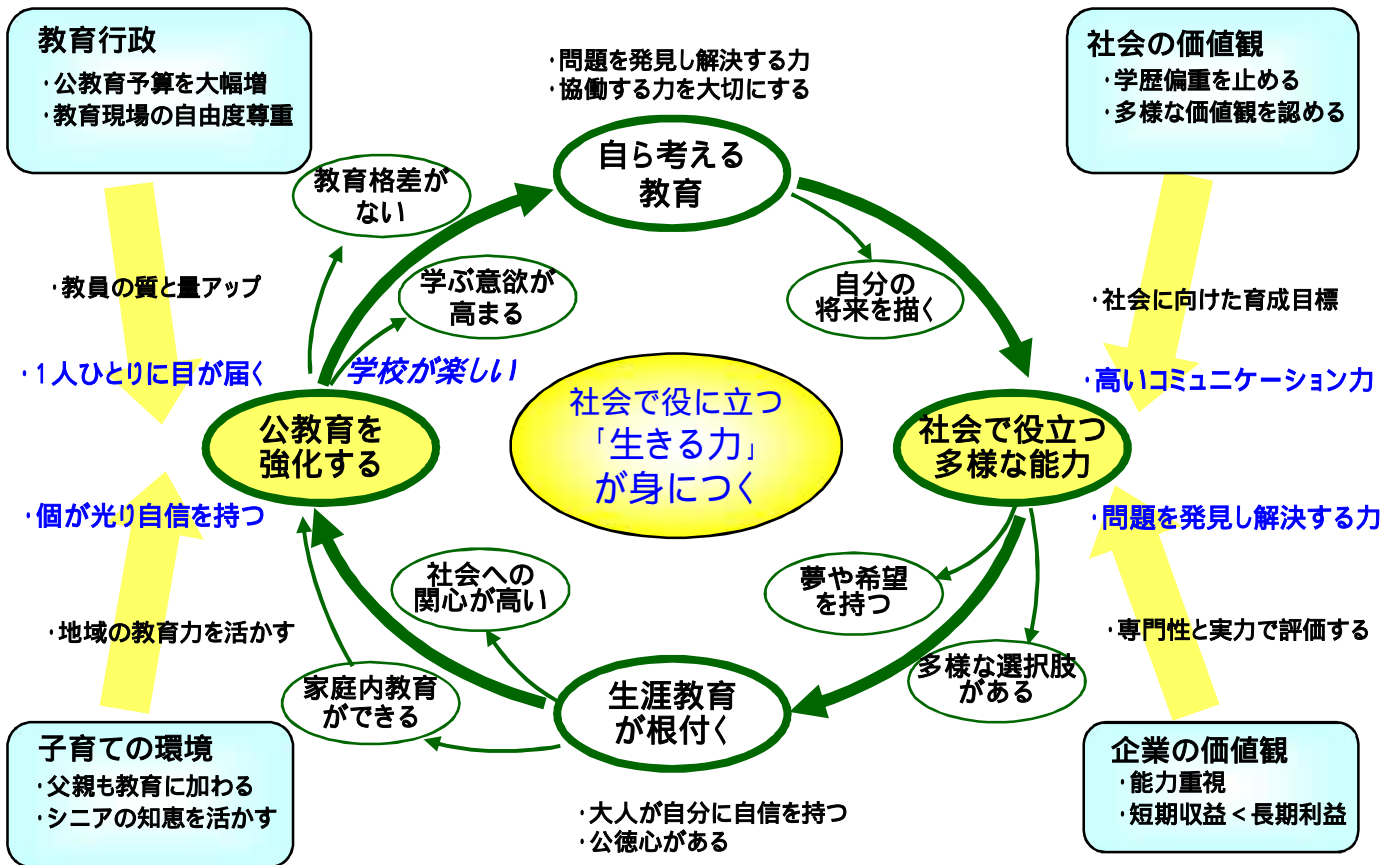
2009年11月3日
“2030ビジョン”プロジェクト

教育をめぐる問題の構図

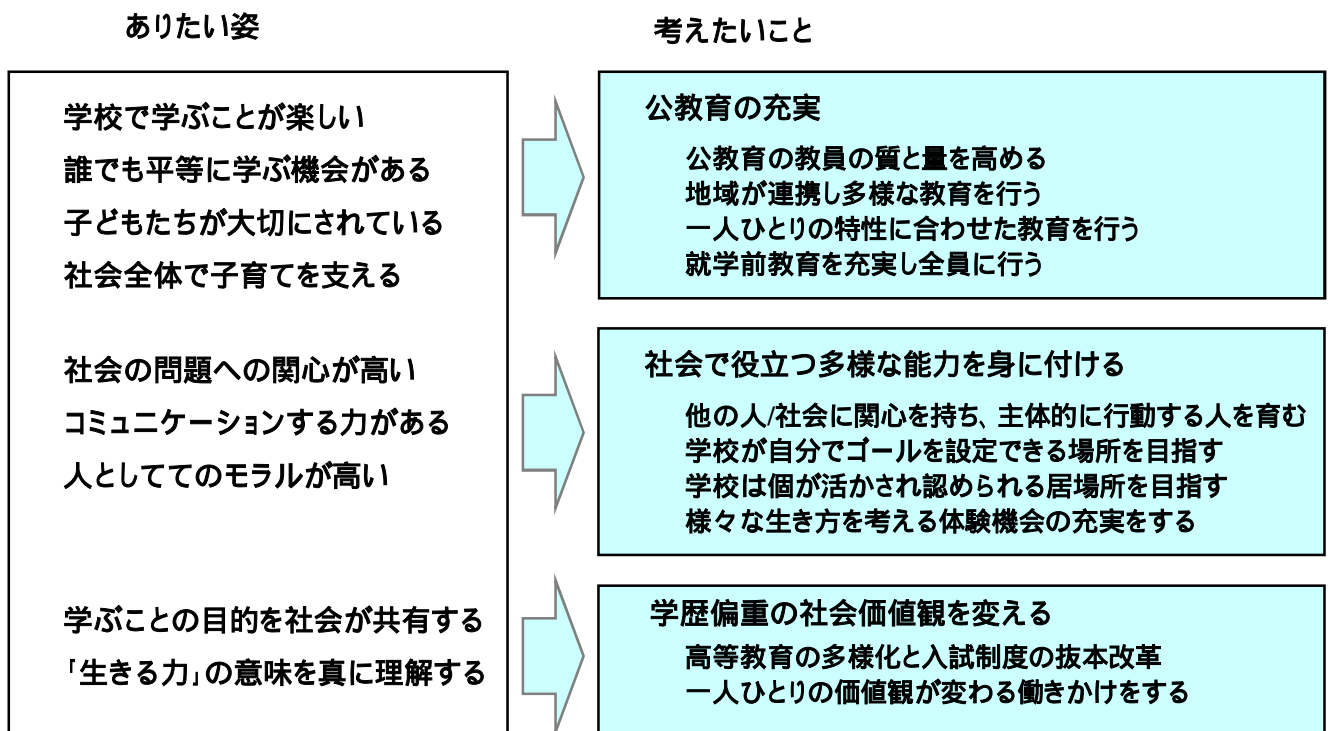


教育の問題は「教育分野」のみならず、社会全体の構造が反映されている

今後の教育のありたい姿は以下のようにあらわすことができます。



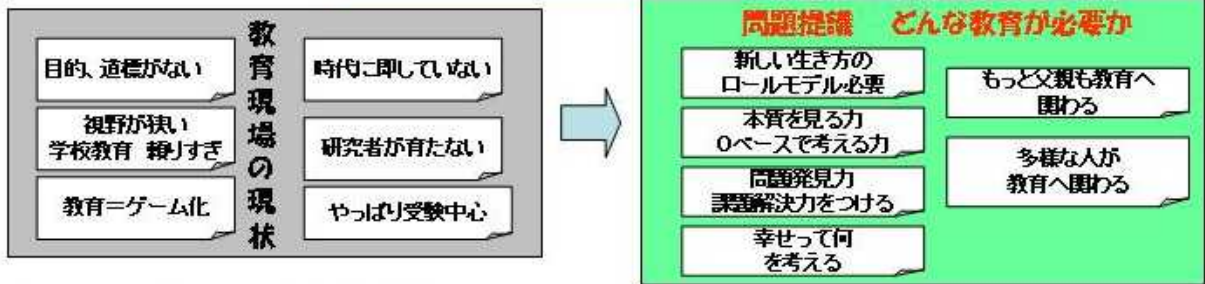
このサイクルをうまく回すために、以下のようなことを考えていきたいと思えます。



上記のような考え方の検討を進め、「2030ビジョン」検討会でさらに煮詰める予定です。参考までに、10月10日の検討会のグループディスカッション資料を以下に添付します。

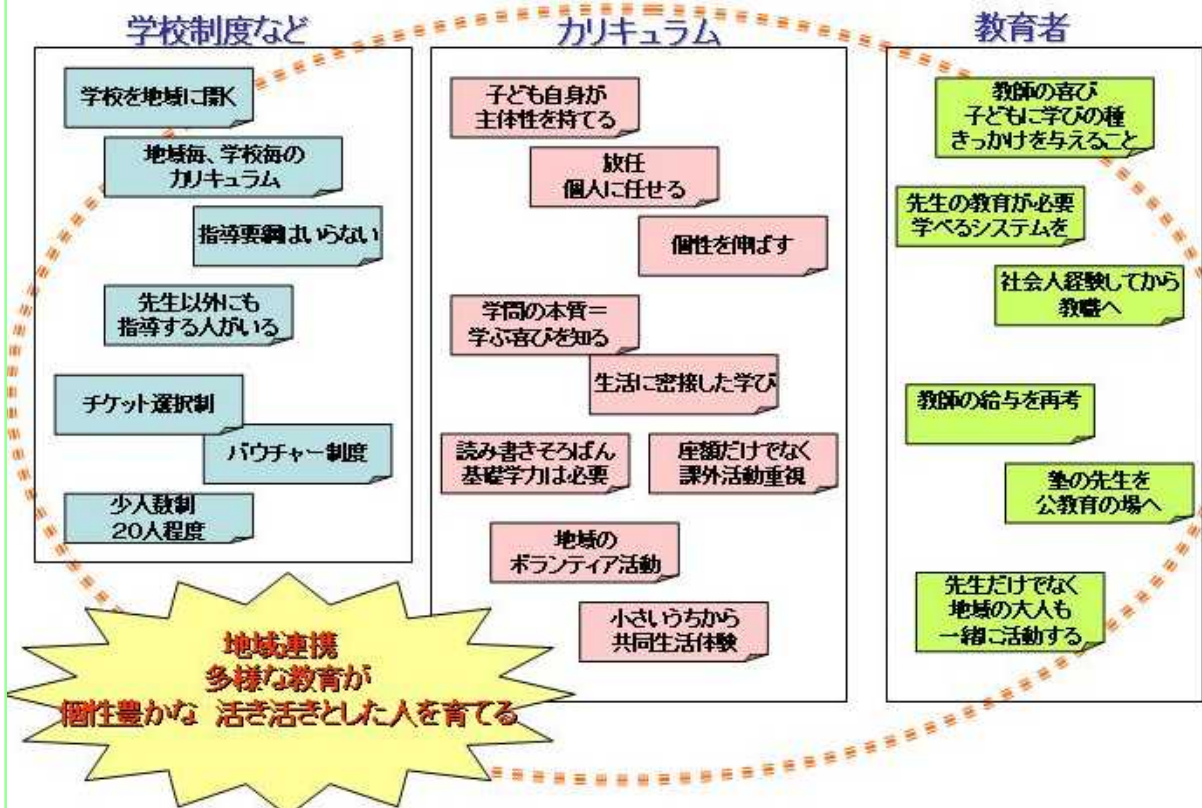
2030教育のあるべき姿 メンバー：石橋 上田 小林 白田 竹本 玉田 三浦 吉岡 菊地(敬称略)

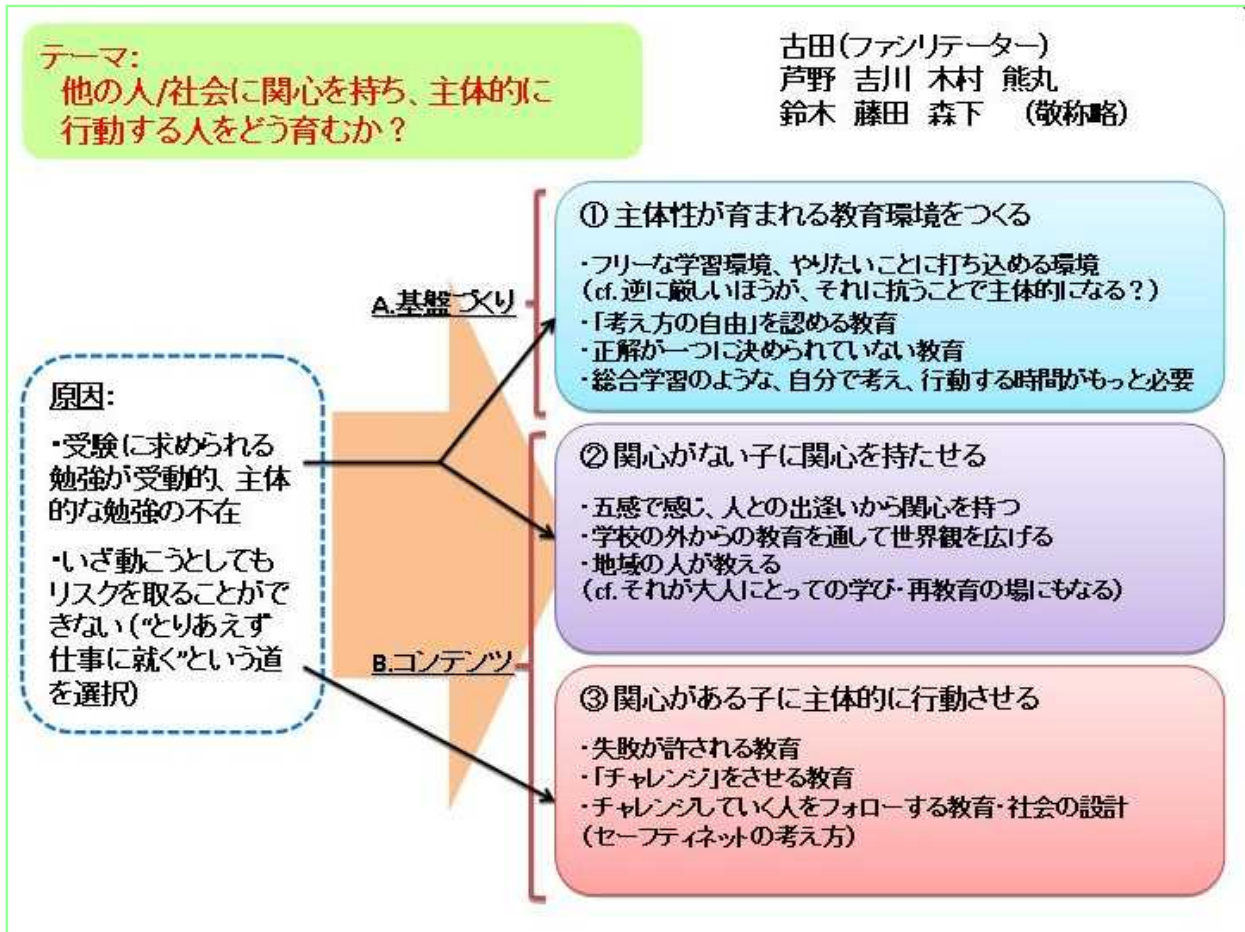
教育現場の現状と問題定義



2030教育のあるべき姿 メンバー：石橋 上田 小林 白田 竹本 玉田 三浦 吉岡 菊地(敬称略)

具体案





テーマ『学ぶことや学校そのものに興味を失う人たちを作らないようにするにはどうしたらよいか?』

新井(ファシリテーター)
大木 関根 西山 宮部
森山 結城 八木 和田 (敬称略)

③現状を打開する解決策

※彼らを受け入れる、信じる、彼らが信じられる「場」や「人」が必要である!

○場…「成功体験」を作る = 自分の存在価値の発見、人に貢献できたという感覚。
例:学校が提供できる成功体験=文化祭などの行事や部活など。
日常の小さなことでも良い。

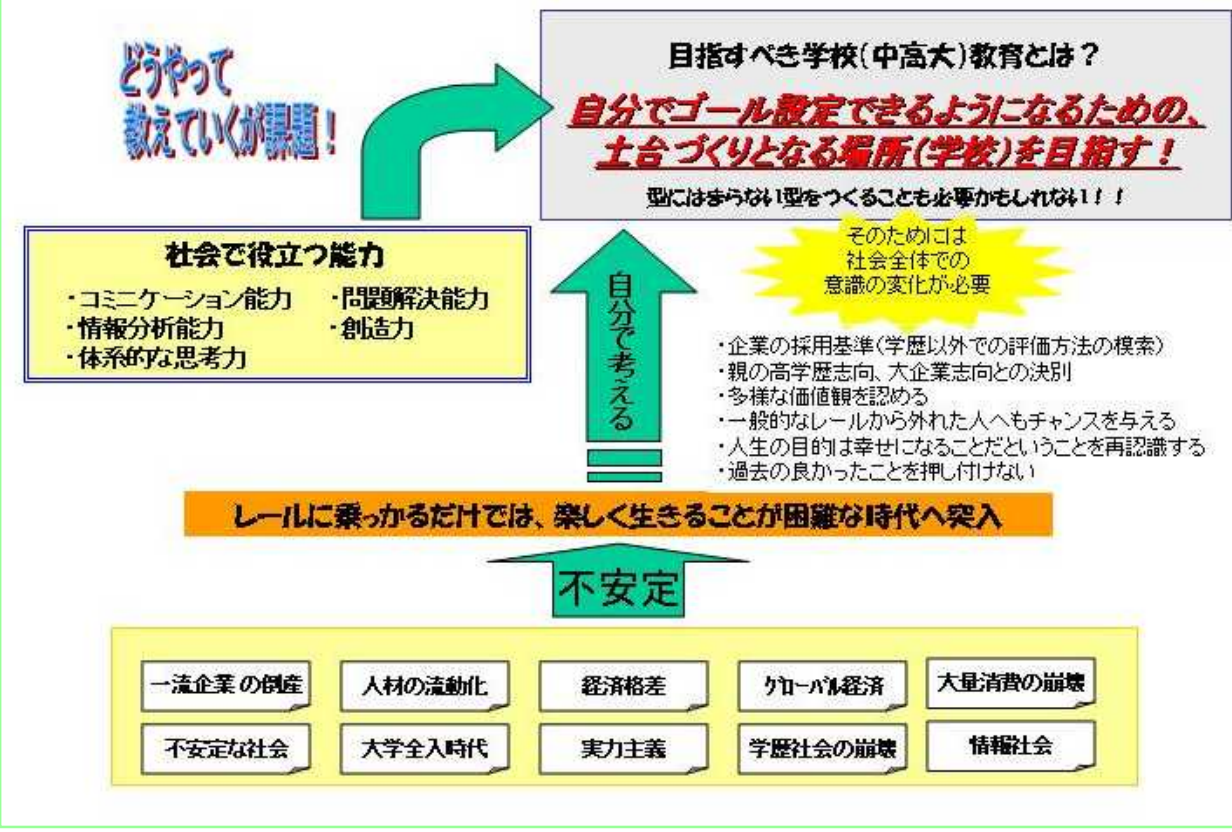
「居場所」を作ってあげる = 自分を受け入れてくれる、認めてくれる場

学歴社会を変える = 学歴に代わる新たな指標として
『人間力』が重視されるべきだ!

○人…自分を認めてくれる、信じられる大人の存在。
「愛情」、「関心」があり、「ふれあい」を持てる存在。

真に社会で役立つ人を育む教育の仕組みは？
高等教育や試験制度はどうあるべきか？

メンバー：黒沢 松本 小山 小林 木村 原田
河内 木野 菊入



2030年の教育

2009年10月10日(土) 東京新橋・リープラにて
枝、住本、山本、村上、栗田、竹腰、鳴津、近藤(ファシリ)

● 教育に求めるものは？

一人ずつキーワードを挙げる



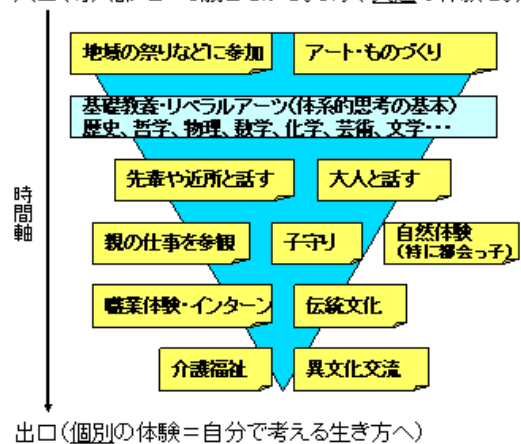
知識の増大を図れとの意見は全くなく、
考える力を涵養し得る、体験(学習)を重視する方向へ

● 体験志向への課題など

- 体系的思考への後押しになるのか...子供同士の社会(ex.ガキ大将)などで生成される体験を補充するのは難し
- ネット社会への対応
- 教師には、似た体験(教員養成課程からすぐに社会人になるなど)をした人物が多く不安→別の職業経験がある人の教員採用、教員ではない一般人がさらに体験学習に関与
- 知識重視の達成評価からの脱却=できた・できない以外の評価軸が必要

● 体験プラン

入口(導入部・2~3歳ごろから。まず、共通の体験を。)



出口(個別の体験=自分で考える生き方へ)

知識詰め込みでも、ゆとり教育でもなく、
さまざまな生き方を考える「体験」機会の充実を。
教師や親だけでなく、他の一般人も関与へ